

いわきネウボラ の主な取り組み



1 相談・支援体制を整備

○地区保健福祉センターがワンストップ拠点

地区保健福祉センターをワンストップ拠点とし、出産・子育て総合支援窓口を設置。子育てコンシェルジュと、保健師や看護師などの資格を有する母子保健コンシェルジュが、妊娠から子育てに関することまで、さまざまな相談に対応

○個室の相談室を設置

プライバシーを確保し、お子さんが一緒でもゆっくりと相談ができるよう、地区保健福祉センターに個室の相談室を設置



私たちが母子保健コンシェルジュ・子育てコンシェルジュです



地区保健福祉センターでは私たちが対応します。気軽にご相談ください。
不安や悩みを解消できるよう、一緒に考えていきましょう。

2 きめ細かな支援を実施

○全ての妊産婦に面接を行い3期にわたる支援プランを作成

母子保健コンシェルジュなどが妊産婦一人一人に面接を行い、妊娠期、産前・産後期、子育て期の3期にわたる支援プランを作成・交付

○チーム体制による支援を実施

必要に応じて地区保健福祉センターの保健師、ケースワーカー、家庭相談員などをメンバーとするチームを編成して、さまざまな支援を実施



Q 支援プランとは？

A ライフステージに合わせた目標や、セルフケアの方法、家族の方の役割、利用できる支援制度などをまとめたものです。

丁寧な面接を行い、個別の状況に応じたプランを作成しますので、ご活用ください。



3 新規・拡充した事業を展開

○助産師何でも相談会「マタニティサロン」を開催

妊娠初期からおおむね産後4カ月までの妊産婦を対象に、小名浜児童センターやこども元気センター、チャイルドハウスふくまるで月1回、助産師による個別相談やミニ講座を開催

○産前・産後ヘルパーを派遣

保健師などが居宅訪問を行い、必要と判断した家庭に対して、洗濯や掃除などの家事の援助を行うヘルパーを派遣

○産後ケアを実施

おおむね産後4カ月までの母子を対象に、助産所において宿泊や日帰りの心身のケアや育児のサポートを有料で実施

○新生児聴覚検査支援を実施

同検査に係る費用の一部を助成するとともに、必要に応じて相談支援を実施

○母子保健指導を拡充

離乳食教室、母子健康相談などを引き続き実施するとともに、働く妊産婦やその家族の相談機会を増やすため、プレママ・プレパパクラスの休日コースを拡充



プレママ・プレパパクラス

4 地域との連携体制を構築

○地域子育て支援拠点の整備

こども元気センターや児童館のほか、公民館、保育所、幼稚園を地域子育て支援拠点（ブランチ）として、相談・情報提供機能などを整備

○さらなる支援の充実に向けて多様な主体と連携

子育て支援の充実に向けて共創の仕組みをつくるため、地域の皆さんやNPO法人、医療機関、子育て支援団体などの関係機関と連携



地域子育て支援拠点であるこども元気センター

7月から 親子健康手帳の交付窓口を集約

母子保健コンシェルジュなどが妊産婦全員に面接を行い、個別の状況に応じた支援プランを作成し、切れ目のない支援につなげていくため、各支所・市民サービスセンターにも設置していた親子健康手帳の交付窓口を、7月から地区保健福祉センターに集約します。

各支所・市民サービスセンターでの交付は6月末で終了となりますので、ご注意ください。

